

曲目紹介

交響曲第1番が完成したとき、マーラーは28歳。人生に目覚めた20代の青年の複雑な感情が随所に見られます。彼の愛弟子で指揮者のブルーノ・ワルターがこの曲をゲーテの作品に例え、「マーラーのウェルテルだ」と言っているほどです。このことは、この曲と音楽的にも精神的にも深い関係にある歌曲集「さすらう若人の歌」が、ソプラノ歌手ヨハンナ・リヒターへの失恋によって生み出されたことからわかります。しかし、若々しさの中にも、彼が芸術を形作る上で必要と考えた4つの要素—美しく崇高なもの、情感に満ちたもの、悲劇的なもの、そして諧謔的で皮肉なもの—が全て織り込まれていることには驚かされます。

作曲家としては不遇な時代の長かったマーラーですが、妻アルマに宛てた手紙に書いています。「やがて、私の時代が来る」と。天国のマーラーは、今日の演奏をどのような想いで聴いてくれるのでしょうか。

第1楽章「ゆるやかに、おもおもしろく—自然の響きのように」4分の4拍子・ソナタ形式

バイオリンからコントラバスまでの全弦楽器がフラジオレット(ハーモニクス)で7オクターブにおよぶA(ラ)を奏でる中、カッコウの鳴き声が響き渡ります。クラリネットとトランペットのファンファーレは、自然のまどろみから目覚め。そして登場するのが「さすらう若人の歌」の第2曲「朝の野辺を歩けば」のメロディです。この曲には、自然への親近感、生きることへの肯定、「この世界がとても好きだ!」というメッセージが込められています。

続いての展開部では、この楽章には不釣り合いな暗鬱な雰囲気も感じられますが、これは第4楽章の予兆。そして再現部は、「芸術作品は人生と同じようにたえず前進しなければならない」と信じていたマーラーらしく、一気にクライマックスを迎え、「ベートーヴェンをモデルにした」という「突拍子もない」終わり方をします。

第2楽章「力強く運動して—ただし急がずに」4分の3拍子・3部形式

力強いレントラー(田舎風の舞踏・ワルツの前身)によって始まるこの楽章。オーストリア山岳地方のヨーデルを伴う舞曲、またはマーラーが少年時代に耳にした舞曲の雰囲気を取り入れたと言われています。ふんふんと音を立てるチェロ・コントラバス、キーキー鳴るバイオリン、そして金切り声をあげるクラリネットによって、村の居酒屋にみんなが集まって「足を踏みならして」踊っている情景が思い浮かぶようです。

ゆったりとしたトリオの部分では、レントラーとワルツが掛け合いを見せています。

第3楽章「緩慢なことなく、荘重に威厳をもって」4分の4拍子・3部形式

「あのメロディーを下手なチェロだと思っている音楽ファンは多い。舞台やテレビで見て、初めて、コントラバスならしかたないかと納得する」(『こんとらばすのとの巻』溝入敬三)

ティンパニのリズムに乗ってコントラバスのソロによって奏でられるのは、ドイツでは「マルティン兄ちゃん」、フランスでは「フレール・ジャック」、アメリカでは「Are you sleeping?」、そして日本では「グー・チョコキ・パーで何つくろう」として知られる、誰もが知っているメロディです。ここでは二短調にされ、ファゴット、チェロ、チューバ、クラリネットと、いろいろな楽器が次々に加わったカノンになっています。

ピアノ 秋元 孝介 AKIMOTO, KOSUKE

西宮市出身。7歳よりピアノを始める。

- 2003年 兵庫県学生ピアノコンクールB部門(小学3・4年生) 最優秀賞・兵庫県知事賞
- 2004年 ピティナ・ピアノコンペティションC級(小学6年生以下) 全国決勝大会入選
- 2006年 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA コンチェルトA部門(中学3年生以下) アジア大会銅賞
- 2007年 ピティナ・ピアノコンペティションE級(高校1年生以下) 全国決勝大会ベスト賞
- 2008年 ショパン国際ピアノコンクール in ASIA コンチェルトB部門(22歳以下) アジア大会奨励賞

現在、西宮市立甲陵中学校3年生 15才。
緒方裕子氏に師事

♪秋元孝介さんから皆様へのメッセージ

皆様、この度はお忙しい中ご来場下さり、ありがとうございます。
本日は、西宮交響楽団の方々と共に、ショパンの美しい音楽を皆様にお届けできれば、大変嬉しく思います。そのためにも、僕はショパンと皆様を結ぶメッセンジャーであることを忘れず、一音一音を大切にお伝えしたいと思います。
最後までどうぞごゆっくりとお楽しみください。